

鹿屋体育大学体育学部のカリキュラムポリシー

鹿屋体育大学体育学部では、スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的で、市民性、国際性を備えたリーダーを養成するために、課程や学生の志向性に沿って、学年進行で1. 専門性の深化と充実、2. 社会人としての豊かな教養の涵養、3. 将来を展望し、勤労観・職業観を醸成できるための教育課程を編成する。

●教育課程の編成の方針

1 専門性の深化と充実を目指して

- 体育学の基礎となる人文・社会及び自然系の分野の内容を理解するため、「基礎科目A」群を選択科目として、修学前半期に配置する。
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導・普及のための基礎的な内容を理解するため、「基礎科目B」群を選択科目として、修学前半期に配置する。
- 国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための専門的、応用的な内容を身につけるため、「応用科目」群を選択科目として、修学後半期に配置する。
また、「応用科目」群には、学生の研究力の専門性を深く探求できるように3つの研究領域を設定し、専門に応じた選択必修科目を配置する。
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現力を身につけるため、「実験演習科目」群を必修及び選択科目として、修学前半期に配置する。
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技力を身につけるため、「関連実技科目」群を選択科目として、修学全期にわたって配置する。
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける関心あるテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力を身につけるため、「ゼミナール」と「卒業研究」を必修科目として修学後半期に配置する。
- 課程毎に、より専門的な知識と技能を体系的に学ぶため、課程独自の科目の配置や選択を設ける。
特に、「関連実技科目」群には、スポーツ総合課程においては海洋スポーツ及び野外活動に係る科目を、武道課程においては武道に係る科目を選択必修科目として配置する。
また、武道課程においては武道に係る基礎的な知識の修得のために、「武道学概論」「武道史」「武道文化論」を必修科目として配置する。
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や事業運営力を身につけるため、理論と実習を連結した「専修科目」群を必修科目として、複数年次にわたって配置する。
- 専修科目等で身につけた体系的な実技指導力や事業運営力を実地的・実践的に活用し、深めるため、「指導・実践科目」群を必修科目として、修学中間期に配置する。
また、「専修科目」群には、学生の指導力（実技指導力及び事業運営力）の専門性を深く探求できるように3つの指導専攻を設定し、専門に応じた選択必修科目を配置する。

2 社会人としての豊かな教養を目指して

- 国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養するため、「コミュニケーション科目」群を選択科目として、修学全期にわたって配置する。特に、英語力の涵養の科目は修学前半期に必修科目として配置する。
- 人間、社会、文化、自然及び環境に関する教養や態度を涵養するため、「社会・文化・自然科目」群を選択科目として、修学全期にわたって配置する。
- 基礎的な情報リテラシー、表現力や討論力を身につけるため、「総合科目」群を選択科目として、修学全期にわたって配置する。

3 将来を展望し、勤労観・職業観の醸成を目指して

- 実践的、創造的なリーダーとしての将来を展望し、勤労観・職業観及びキャリアデザイン力を醸成するため、「キャリア形成科目」群を一部必修科目として、修学全期にわたって配置する。
- スポーツリーダーとして社会的に活躍できるよう、スポーツ・武道関連資格の取得につながる資格関連の科目も開設する。

●教育・学修方法に関する方針

体育学部における教育は、各科目区分の所定の要件を満たした上で、1～4年次にかけて一般科目とキャリア形成科目で38単位以上、専門科目と専攻科目で86単位以上の合計124単位を修得することを指導する。

なお、専門科目の応用科目については、専門的な研究力が身につくようにゼミナール指導教員が所属する系に応じて、2単位以上を修得するものとし、専攻科目の専修科目については、実践的な指導力が身につくようにスポーツ総合課程の学生はアスリート・コーチング系又は生涯スポーツ系より1系以上を選択し、武道課程は武道系を履修し必要な単位を修得することを指導する。

また、卒業研究については、指導教員の指導のもと、4年次において卒業研究中間発表及び卒業研究発表会で発表できるように指導する。

●学修成果の評価の方針

各授業科目の学修成果の評価は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行う。

また、卒業研究についての成果は、卒業研究発表会で公開し、主査と副査により評価を適切に行う。